

1 この科目の構成について

教科	地理歴史科	科目	地理探究	単位	3 単位
対象コース	一貫・進学・総合	コース	対象クラス	2 年	1, 2理系3, 4組
使用教科書	新詳地理B（帝国書院）新詳高等地図（帝国書院）				
使用副教材	サクシード地理（啓隆社）、地理の点数が面白いほどとれる本（角川）				

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

私達の世界は、どのような資源や産業の生産活動により成立しているのでしょうか。そして、その生産活動は、どのような変化を遂げるのでしょうか。資源・産業に関する知識を深め、今までの変化、これからの変化を読み取る力を身につけて下さい。私達の世界は、さまざまな指標を用いることにより、さまざまな地域に区分されています。指標である自然・産業・人種・民族・国家に関する知識を深め、地域の特色及び地域間に共通するもの・相違するものを把握する力を身につけて下さい。

私達の世界の現在と未来を正しく把握するために、情報を集める力・情報を分析する力を身につけて下さい。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

- 1) 地理情報の活用方法、世界観の変化、地球上の位置、時差、世界図の図法・種類、一般図と主題図、地域調査を学習する。
- 2) 地形の種類・成因・分布、陸水と海洋、大気大循環、雨温図とハイサーグラフ、世界の気候区分・植生・土壌を学習する。
- 3) 日本の地形・気候、自然災害と防災、オゾン層の破壊・地球温暖化・森林破壊・砂漠化・酸性雨等の環境問題を学習する。
- 4) 大学共通テスト対策として、重要語句の整理と深い理解が必要です。

(2) 家庭

- 1) 復習が必要です。授業で理解できなかった用語や内容はその日のうちに教科書などで確認しておきましょう。
- 2) 新聞やテレビのニュースを必ず見ましょう。問題を解く際に力強い味方になります。常識で解ける問題もある。
- 3) 模試の見直しの際、模範解答の解説書を熟読し、「正解の根拠・地図や統計読解のテクニック」を理解し覚えましょう。

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 (内容のまとめごと)	世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。 世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解している。	世界の人々の生活文化について、その生活文化がみられる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
評価方法	定期考査／提出課題／発問評価	定期考査／提出課題／発問評価	提出課題／発問評価

4 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	4	第1章 自然環境 序節 地球環境と人間	1 さまざまな地図 2 時差			
		1 地形 	1 地形の成因と地球表面の起伏 2 地球規模の大地形 3 河川流域と海岸にみられる小地形 4 そのほかの特徴的な小地形 【第1回考查】	●	●	●
	5		地球表面には、地球規模の大地形や、河川が形成した小地形などのさまざまな地形がみられる。それぞれの地形には、どのような特徴や成因があり、人間活動とどのように関わっているのだろうか			
	6	2 気候  	1 気候の成り立ち 2 気候と生態系 3 世界の気候区分 4 さまざまな気候帯 5 気候変動と異常気象 気温や降水量、風などの気候要素は地域によって異なるため、地球上の生態系はさまざまである。気候の違いは、どのような要因で生まれるのだろうか。また、人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか 【第2回考查】	●	●	●
	7	3 日本の自然環境	1 気候の成り立ち 2 気候と生態系 3 世界の気候区分 南北に細長い日本列島には、山地や平野、亜寒帯から亜熱帯にわたる気候など、多様な自然環境がみられる。日本の自然環境にはどのような特徴があり、その特徴は自然災害とどのように関係しているのだろうか。	●	●	●
		4 地球環境問題 	1 地球環境問題とは 2 さまざまな地球環境問題 3 地球環境問題の解決に向けた取り組み 地球上では、さまざまな環境問題が発生している。地球環境問題を解決して、地球と人類が共存できる持続可能な社会をつくり出すためには、どのような考え方で、どのような取り組みをすればよいのだろうか。	●	●	●
	8	第2章 資源と産業 1 農林水産業 	1 気候の成り立ち 2 農業の地域区分 3 現代世界の農業の現状と課題 4 日本の農業の現状と課題 5 世界と日本の林業 6 気候変動と異常気象 農林水産業は、自然条件の影響を受けるとともに、社会条件の変化に伴って変容してきた。農林水産業の分布や発達にはどのような傾向や規則性がみられるのだろうか。	●	●	●
	9	2 食料問題 	1 世界の食料問題 2 日本の食料問題 食料の分配は、世界全体をみると著しい偏りがある。飽食や飢餓がみられるのは、それぞれどのような地域だろうか。また、その原因は何だろうか 【第3回考查】	●	●	●

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
3	10	3 エネルギー・鉱産資源 	1 エネルギー資源の種類と利用 2 化石燃料の分布と利用 3 電力の利用 4 鉱産資源の種類と利用 世界のエネルギー・鉱産資源の分布には、大きな偏りがある。エネルギー・鉱産資源は、どのようにして生活や産業に利用され、生産や消費の不均衡をなくすためにどのようなことが行われているのだろうか。	●	●	●
	11	4 資源・エネルギー問題 	1 資源・エネルギーをめぐる課題 2 日本の資源・エネルギー問題 これまでの資源・エネルギー問題は、限りある資源をどのように利用するかという考え方であった。今後、資源・エネルギー問題を解決し、持続可能な社会を実現するためには、どのような考え方が必要なのだろうか。	●	●	●
	12	5 工業 	【第4回考査】 1 工業の発達と種類 2 工業の立地 3 世界の工業地域 4 現代世界の工業の現状と課題 5 日本の工業 工業は、さまざまな製品を生み出し、人々の生活や産業の発展を支えてきた。世界の工業はどのように発展し、現在ではどのような工業分野や地域が中心となり、どのように変わろうとしているのだろうか。	●	●	●
	1	6 第3次産業 第3章 交通・通信と観光、貿易	1 経済発展と第3次産業 2 商業の現状と変化 3 商業以外のさまざまな第3次産業	●	●	●
	2	1 交通・通信	1 世界を結ぶ交通 2 日本の交通の特徴 3 情報通信の発達	●	●	●
	2	2 観光	1 余暇の拡大と観光産業 2 日本の観光とその変化 交通と通信の発達などをきっかけとして、日本では、訪日外国人数を増やして観光産業などを盛んにしようとする取り組みがみられる。観光にはどのような特徴や利点があり、どのような課題があるのだろうか。	●	●	●
	3	3 貿易と経済圏	1 余暇の拡大と観光産業 2 日本の観光とその変化 3 日本の貿易	●	●	●
	3	各単元のまとめ	【第5回考査】  	●	●	●

1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	地理歴史科	科目	日本史探究	単位	3 単位
対象コース	一貫・進学・総合・美術 コース	対象クラス	2 年	1. 2 組文系 5、6 組	
使用教科書	日本史探究『詳説日本史』（山川出版社）				
使用副教材	二高の日本史（本校教材）、最新日本史図表（第一学習社）				

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

- 1) 授業用テキストに歴史用語を書き込み、頻出重要文章に正確にマーカーや書き込みをすることが必要です。
- 2) その授業で説明された歴史用語や頻出重要文章を確実に理解するとともに、授業の流れを把握することも必要です。
- 3) 大学共通テストだけでなく、難関私立大学で出題されるレベルの語句にも触れるため、重要語句の整理と深い理解が必要です。

(2) 家庭

- 1) 予習として授業用テキストを読み、頻出重要語句にマーカーをする。
- 2) 授業で教わった内容の復習を欠かさず行う（授業用テキストを見直す。教科書へのマークなど）
- 3) 考査前等に出される課題をしっかりと取り組み、提出する。

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 (内容のまとめごと)	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけようとしている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力をつけようとしている。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。
評価方法	定期考査／提出課題／発問評価	定期考査／提出課題／発問評価	提出課題／発問評価

4 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	4	第Ⅰ部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 1 文化の始まり  	①人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ②打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、竪穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気づく。	●	●	●
		2 農耕社会の成立	①大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて、弥生文化の形成を考察す ②集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連づけて考察する。 ③原始社会の特色についての考察を踏まえ、時代を通観する問いを表現する。	●	●	●
		第2章 古墳とヤマト政権 1 古墳文化の展開	①地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。 ②ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 ③古墳時代後期から終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。	●	●	●
			【第1回考査】			
	5	2 飛鳥の朝廷	①ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。	●	●	●
		第3章 律令国家の形成 1 律令国家への道	①律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。 ②律令にもとづく国内統治体制について理解する。	●	●	●
		2 平城京の時代	①律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。 ②平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する。	●	●	●
		3 律令国家の文化	①律令国家の成立期に当たる白鳳文化の形成過程について考察する。 ②天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。	●	●	●
	6		【第2回考査】			
		4 律令国家の変容	①平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。 ②東アジアとの関係を踏まえて、唐風文化である弘仁・貞観文化を理解する。	●	●	●
		第4章 貴族政治の展開 1 摂関政治	①藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。 ②日本と東アジアとの関係において、民間の貿易や交流が中心となったことをとらえる。	●	●	●

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
2	7	2 国風文化	①大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。 ②摂関政治の在り方と文化の展開に、どのような関係があるかを考察する。	●	●	●
		3 地方政治の展開と武士	①律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。 ②地方の反乱やその鎮圧など、武士の成長過程について、源氏などを例にとって考察する。	●	●	●
		第5章 院政と武士の躍進				
		1 院政の始まり	①院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ②外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。	●	●	●
		2 院政と平氏政権	①政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。 ②古代から中世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。	●	●	●
		第6章 武家政権の成立				
		1 鎌倉幕府の成立	①鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 ②鎌倉幕府の成立時期をめぐる諸説に関して、それぞれの根拠を明確にして考察する。	●	●	●
		2 武士の社会	①承久の乱にともなう公武関係の変化に着目して、將軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解する。 ②武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。	●	●	●
		3 モンゴル襲来と幕府の衰退	①モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながることを理解する。 ②非御家人に対する権限拡大など、幕府勢力が西国に浸透したことの意義を考察する。	●	●	●
		4 鎌倉文化	①庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。 ②伝統的な公家文化の世界で、有職故実・古典研究などの学問が進展した背景を考察する。	●	●	●
	8		【第3回考査】			
		第7章 武家社会の成長				
		1 室町幕府の成立	①南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 ②琉球・蝦夷ヶ島を含む東アジアとの交流が中世日本にもたらした影響について理解する。	●	●	●
		2 幕府の衰退と庶民の台頭	①庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。 ②諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。	●	●	●
		3 室町文化	①武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化および、大陸文化と伝統文化の関わりについて理解する。 ②諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。	●	●	●

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
3	10	4 戦国大名の登場	①応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。	●	●	●
		第Ⅲ部 近世 第8章 近世の幕開け				
	11	1 織豊政権	①大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 ②織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。	●	●	●
		2 桃山文化	①新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。	●	●	●
		第9章 幕藩体制の成立と展開				
		1 幕藩体制の成立	①江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。 ②江戸幕府の鎖国政策について、単なる対外貿易の遮断ではないことを理解し、鎖国後の貿易関係の在り方も含めてその影響と歴史的意義について考察する。	●	●	●
		2 幕藩社会の構造	①幕藩体制の確立期の経済・社会を、兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。 ②被支配身分の特質や、周縁部分に生きる人々の社会的役割について理解する。	●	●	●
		3 幕政の安定	①17世紀後半から18世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。 ②諸藩における政治の安定化や刷新について、その特色を理解する。	●	●	●
			【第4回考査】			
		4 経済の発展	①幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。 ②全国市場の確立や都市の発達で商品流通が拡大し、各地で風土に応じた特産物が生まれたことを理解する。	●	●	●
	12	5 元禄文化	①経済の発展と関連して町人文化が形成されたことについて、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。 ②儒学の特色を理解し、その発達が他の学問に与えた影響を考察する。	●	●	●
		第10章 幕藩体制の動揺				
	1	1 幕政の改革	①農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩がおこなった諸改革の意義とその影響を考察する。 ②幕府や藩の支配に対しておこなわれた百姓一揆や、都市の打ちこわしの実態について理解する。	●	●	●

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
	2	2 宝暦・天明期の文化	①江戸中期に確立した洋学や国学、新たなかたちで展開する文学・芸能・美術について、社会の変容にともなう幕藩体制の動揺と関連づけて考察する。 ②幕府や藩による武士の教育に加え、民間でも私塾や寺子屋が開かれた背景について理解する。	●	●	●
			【第5回考査】			
	3	3 幕府の衰退と近代への道	①欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を理解する。	●	●	●
		4 化政文化	②近代化の基盤の形成について、産業経済面や軍事面などに着目して、雄藩の浮上という地方からの視点から考察する。 ①化政文化について、学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する。 ②都市の民衆を中心とする芸能などが盛んになったことを理解する。	●	●	●

1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	地理歴史科	科目	歴史演習		単位	1	単位
対象コース	一貫・進学	コース	対象クラス	2	年	1・2組文系	
使用教科書	日本史探究『詳説日本史』（山川出版社）						
使用副教材	二高の日本史（本校教材）、最新日本史図表（第一学習社）						

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか
 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

- 1) 授業用テキストに歴史用語を書き込み、頻出重要文章に正確にマーカーや書き込みをすることが必要です。
- 2) その授業で説明された歴史用語や頻出重要文章を確実に理解するとともに、授業の流れを把握することも必要です。
- 3) 大学共通テストだけでなく、難関私立大学で出題されるレベルの語句にも触れるため、重要語句の整理と深い理解が必要です。

(2) 家庭

- 1) 予習として授業用テキストを読み、頻出重要語句にマーカーをする。
- 2) 授業で教わった内容の復習を欠かさず行う（授業用テキストを見直す。教科書へのマークなど）
- 3) 考査前等に出される課題をしっかりと取り組み、提出する。

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 (内容のまとめごと)	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけようとしている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力をつけようとしている。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。
評価方法	提出課題／発問評価	提出課題／発問評価	提出課題／発問評価

4 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	4	■日本史探究の授業を進める。	①日本史探究の授業を行い、内容を理解する。	●	●	●
2	～					
3	2					

1 この科目の構成について

教科	公民	科目	公共、政治・経済	単位	3 単位
対象コース	一貫・進学・総合（文系）	コース	対象クラス	2 年	1, 2, 3 組
使用教科書	「私たちの公共」清水書院、「高等学校政治・経済」清水書院				
使用副教材	「ニューコンパスノート政治・経済2024」とうほう 「最新政治・経済資料集」第一学習社				

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか ・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解する ・諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる ・現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や合意形成や社会参画を入れながら構想したことを議論する力を養う ・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う
学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか (1) 学校 予習を前提に授業を行います。授業はスライドと板書を併用して実施します。必要に応じて、メモを取りながら授業を受けて下さい。必要なプリントは印刷して配布します。 (2) 家庭 予習してください。教科書を読み、準備ワークや配布してあるプリントの穴埋めを確実に行ってきて下さい。また、必要に応じて家庭学習課題を課す場合もありますので、期日までに確実に提出して下さい。

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 (内容のまとめごと)	第一部公共の扉 ・現代の諸課題を考察し、選択、判断するための概念や理論を理解している。 ・倫理的主体として活動するために必要となる情報を調べてまとめる技能を身につけている。 第二章私たちの生活と政治 ・人間の尊厳と平等、個人の尊重や民主主義、自由、権利など公共的な空間における基本原理について理解している。 第三章平和主義と日本 ・現実社会の諸事象を理解している。課題の解決のために必要な情報を収集し読み取ることができる。 第五章私たちの生活と国際社会 ・国際平和と人類の福祉に寄与するための国際法の意義や国際機関の役割について理解している。	第一部公共の扉 ・事実を基に多面的、多角的に考察し公正に判断する力が身に付いている。 第二章私たちの生活と政治 ・思考実験などを用いて個人と社会との関わりについて多面的、多角的に考察することができている。 第三章平和主義と日本 ・合意形成や社会参画のために、議論する力が身に付いている。 第五章私たちの生活と国際社会 ・合意形成や社会参画のために、議論する力が身に付いている。	第一部公共の扉 ・現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度が養われている。 第二章私たちの生活と政治 ・人間社会に生きる人間としての在り方生き方に自覚がある。 ・国民主権を担う公民としての自覚がある。 第三章平和主義と日本 ・自国を愛し、平和と繁栄を図ることの大切さに自覚がある。 第五章私たちの生活と国際社会 ・各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについて自覚がある。
評価方法	・年5回の定期考査 ・授業中の発言や授業に参加する態度 ・プリント、レポートの内容や提出状況	・年5回の定期考査 ・授業中の発言や授業に参加する態度 ・プリント、レポートの内容や提出状況	・年5回の定期考査 ・授業中の発言や授業に参加する態度 ・プリント、レポートの内容や提出状況

4 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	4	第一部 公共の扉 第1章 社会で生きるということ 1 私たちと青年期 2 私たちと社会 3 人間の社会と文化 zoom あっぶ① 世界の宗教 zoom あっぶ② 日本の思想  	青年期の課題や人間が社会的存在であることの意義を理解する。自分自身が公共的な空間を作り出す一員である自覚を深めるとともに、他者と協働して社会を作り出すことの意義について多面的・多角的に考察し、表現する。 世界の宗教や日本の思想等、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れることを通じて、自らの価値観を形成するとともに、他者の価値観を尊重することができる存在であることについて理解する。	○	◎	○
	5	第2章 みんなが幸せな社会とは？ 1 よく生きるとは？ 徳 zoom あっぶ③ 世界の思想 2 幸福な社会とは？功利主義 3 幸福な社会とは？正義の原理 Activity 1 生命と科学技術の問題と倫理 Activity 2 環境問題と人間の活動 資料室 地球環境問題  	行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解する。 幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを通して、人間としての在り方生き方について考えることがよりよく生きる上で重要であることを理解する。 生命倫理や環境倫理の問題を事例に、諸資料を読み取り、情報を活用して、幸福を重視する考え方や公正などの義務を重視する考え方を踏まえ、人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。	◎	◎	○
	6	第3章 公共的な空間における基本原理 1 個人の尊重と社会 2 民主主義、立憲主義 3 法はなぜ必要なのか Activity 3 社会のルールについて考えよう！ How to 公共1 「候補者男女均等法」の是非について「平等」の視点から考察する 	人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解する。 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本原理について理解する。 「新型コロナウイルス問題」「候補者男女均等法」を事例に、諸資料を読み取り、情報を活用して、公共的な空間における基本原理を踏まえ、個人と社会との関係を多面的、多角的に考察、構想できるようにする。 具体的な事例を通して、法や規範の意義及び役割について理解する。	○	◎	○
2	7	第2部 よりよい社会の形成と参画 第1章 私たちの生活と法 1 個人と法 Activity 4 消費者の権利と義務 CHECKBox 01日本国憲法の成立と基本原理 資料室 日本国憲法	日本国憲法と大日本帝国憲法との比較から相違点を考える。また日本国憲法の三大原則を理解する。 「消費者の権利と義務」について、具体的事例を通して、多様な契約の存在や、契約の意義やリスクについて多面的・多角的に考察、表現できるようにする。 具体的な事例を通して、日本国憲法の基本的な権利のうち、平等権と自由権について理解する。	◎	○	○
	8	2 平等に生きる権利 3 自由に生きる権利 4 人間らしく生きる権利 資料室 日本国憲法の人権保障  	具体的な事例を通して、日本国憲法の基本的な権利のうち、自由権と社会権の違いについて理解する。 日本国憲法の基本的な権利のうち、「新しい人権」について理解する。また、個人情報保護に係わって、資料を読み取って、情報モラルと情報リテラシーを高めることの重要性を理解する。	◎	○	○
	9			◎	◎	○

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
3	10	5 新しい人権 zoom あっぶ④ 個人情報の保護と情報リテラシー第2章 私たちの生活と政治	日本国憲法の基本的な権利のうち、「新しい人権」について理解する。また、個人情報保護に係わって、資料を読み取って、情報モラルと情報リテラシーを高めることの重要性を理解する。	◎	◎	○
	11	1 日本の統治機構 zoom あっぶ⑤ 世界の統治機構 2 国会のしくみとはたらき 3 内閣のしくみとはたらき 4 行政機関としての国の役割と体制 5 裁判所のしくみとはたらき 6 紛争解決のしくみ Activity 5 模擬裁判をやってみよう！	日本の統治機構と世界の統治機構と比較し、私たちの権利や自由を守るためにどのように組織されているのか理解する。 国会のしくみと働きについて理解する。 内閣のしくみと働きについて理解する。 日本の行政機関の特徴と行政権の拡大の問題点について理解する。	○	○	○
	12	7 地方自治の役割と現状 zoom あっぶ⑥ 世界の選挙事情 8 選挙のしくみ 9 政党と政治参加 10 民主政治の原理と世論 Activity 6 地域の課題を解決する取り組み	裁判所のしくみと働きについて理解する。また、司法権の独立の意義について考える。 刑事裁判と民事裁判の違いについて理解する。また、紛争解決の様々なしくみについて理解する。 「模擬裁判」を事例に、裁判や法律家が果たす役割、適正な手続き、証拠や論拠に基づき公平・公正に判断することについて多面的・多角的に考察、表現できるようにする。	◎	◎	○
3	1	第3章 平和主義と日本 1 日本の平和主義と憲法 Activity 7 平和を守ろう！ 2 日本の外交と平和な社会の構築 Activity 8 世界平和について考えてみよう！ How to 公共2 「憲法改正」の是非について、幸福、平等、公正の視点から考えよう	地方自治のしくみと意義や選挙のしくみと課題について理解する。 民主政治において世論が果たす役割と課題について理解する。 「模擬請願」を事例に、現在住んでいる自治体が抱える課題について適切に情報を収集し、読み取って、課題の解決の在り方について考察、構想する。	◎	◎	○
			具体的な事例を通して、我が国の安全保障に自衛隊の果たしてきた役割を理解するとともに、日本の安全保障の在り方について考察、構想する。 日本の戦後における外交のあゆみを通して、平和な社会を作るために日本の外交が果たしてきた役割とその課題について理解する。	◎	◎	○
			「領土問題」を事例に、現在日本が抱えている「領土問題」の経緯に関する情報を収集し、読み取って、「領土問題」の解決の在り方について考察、構想する。 「憲法改正」を事例に、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方等を活用して、憲法改正の在り方について考察、構想する。	◎	◎	○

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
3	2	第5章 私たちの生活と国際社会 1 国際社会と国際法 2 国際連合と国際機関 CHECKBox 04	国際社会における国家主権の意味と、国際関係を規律する国際法の意義及びその発達について理解する。	◎	○	○
	3	国際社会の動向と日本 3 平和な国際社会をめざす 4 グローバル化する社会 Activity 14 経済のグローバル化と相互依存 5 発展途上国の経済成長と地域的な経済統合 6 持続可能な国際社会 Activity 15 国際社会で貢献しよう！ How to 公共3 水をめぐる問題 SDGs を参考として、日本の立場（個人・国家）でどのような解決策を考えられるだろう	国際連合と国際機関の意義と役割について理解する。 第二次世界大戦後、世界の体制はどのような展開をしたのかを理解する。また、その歴史の中で、核拡散防止の現状と核軍縮に向けた取り組みについて理解する。 自由貿易と保護貿易の違いを理解するとともに、自由貿易が拡大した背景やその影響（「相互依存」等）について、為替レートや国際収支と関連付けながら理解する。 「経済のグローバル化と相互依存」を事例に、グローバル化の進展が及ぼす影響と社会の変化について、考察し、表現する。 先進国と発展途上国との経済格差の問題とリージョナリズムが引き起こす意義と課題について理解する。 「国際社会で貢献しよう」を事例に、SDGsの概念を理解するとともに、ODA大綱等の資料を読み取り、日本が国際社会で果たすべき役割について考察し、構想する。 「水をめぐる問題」を事例に、諸資料を読み取り、論点を踏まえて、「水」を巡る国際的な問題に対して、どのような取り組みが求められるのか、考察し、構想する。	◎	○	○
		 		◎	○	○
		経済分野については3学年で扱う。		○	◎	◎

1 この科目の構成について

教科	公民	科目	公共	単位	2	単位
対象コース	一貫・進学・総合理系（理系） 情報クラス、美術コース	コース	対象クラス	2 年	1, 2, 4, 5, 6 組	
使用教科書	「私たちの公共」 清水書院					
使用副教材	「私たちの公共ワークノート」 清水書院 「クローズアップ公共」 第一学習社					

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

- ・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解する
- ・諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる
- ・現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や合意形成や社会参画を入れながら構想したことを議論する力を養う
- ・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

予習を前提に授業を行います。授業はスライドと板書を併用して実施します。必要に応じて、メモを取りながら授業を受けて下さい。必要なプリントは印刷して配布します。

(2) 家庭

予習してください。教科書を読み、準拠ワークや配布してあるプリントの穴埋めを確実に行ってきて下さい。また、必要に応じて家庭学習課題を課す場合もありますので、期日までに確実に提出して下さい。

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価 規準 (内容のま とまりご と)	第一部公共の扉 ・現代の諸課題を考察し、選択、判断するための概念や理論を理解している。 ・倫理的主体として活動するために必要となる情報を調べてまとめる技能を身につけている。 第二章私たちの生活と政治 ・人間の尊厳と平等、個人の尊重や民主主義、自由、権利など公共的な空間における基本原理について理解している。 第三章平和主義と日本 ・現実社会の諸事象を理解している。課題の解決のために必要な情報を収集し読み取ることができる。	第一部公共の扉 ・事実を基に多面的、多角的に考察し公正に判断する力が身に付いている。 第二章私たちの生活と政治 ・思考実験などを用いて個人と社会との関わりについて多面的、多角的に考察することができている。 第三章平和主義と日本 ・合意形成や社会参画のために、議論する力が身に付いている。	第一部公共の扉 ・現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度が養われている。 第二章私たちの生活と政治 ・人間社会に生きる人間としての在り方生き方に自覚がある。 ・国民主権を担う公民としての自覚がある。 第三章平和主義と日本 ・自国を愛し、平和と繁栄を図ることの大切さに自覚がある。
評価 方法	・年5回の定期考査 ・授業中の発言や授業に参加する態度 ・プリント、レポートの内容や提出状況	・年5回の定期考査 ・授業中の発言や授業に参加する態度 ・プリント、レポートの内容や提出状況	・年5回の定期考査 ・授業中の発言や授業に参加する態度 ・プリント、レポートの内容や提出状況

4 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	4	第一部 公共の扉 第1章 社会で生きるということ 1 私たちと青年期 2 私たちと社会 3 人間の社会と文化 zoom あっぶ① 世界の宗教 zoom あっぶ② 日本の思想	青年期の課題や人間が社会的存在であることの意義を理解する。自分自身が公共的な空間を作り出す一員である自覚を深めるとともに、他者と協働して社会を作り出すことの意義について多面的・多角的に考察し、表現する。	○	◎	○
	5	16 平和と公正をすべての人に  道徳	世界の宗教や日本の思想等、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れることを通じて、自らの価値観を形成するとともに、他者の価値観を尊重することができる存在であることについて理解する。	◎	◎	○
	6	第2章 みんなが幸せな社会とは？ 1 よく生きるとは？ 徳 zoom あっぶ③ 世界の思想 2 幸福な社会とは？ 功利主義 3 幸福な社会とは？ 正義の原理 Activity 1 生命と科学技術の問題と倫理 Activity 2 環境問題と人間の活動 資料室 地球環境問題	行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解する。	◎	◎	○
		3 すべての人に健康と福祉を  13 気候変動に具体的な対策を 	幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを通して、人間としての在り方生き方について考えることがよりよく生きる上で重要であることを理解する。	◎	◎	○
			生命倫理や環境倫理の問題を事例に、諸資料を読み取り、情報を活用して、幸福を重視する考え方や公正などの義務を重視する考え方を踏まえ、人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。	○	◎	○
	7	第3章 公共的な空間における基本原理 1 個人の尊重と社会 2 民主主義、立憲主義 3 法はなぜ必要なのか Activity 3 社会のルールについて考えよう！ How to 公共1 「候補者男女均等法」の是非について「平等」の視点から考察する	人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解する。	○	◎	○
		16 平和と公正をすべての人に 	人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解する。	◎	○	○
2	8	「新型コロナウイルス問題」「候補者男女均等法」を事例に、諸資料を読み取り、情報を活用して、公共的な空間における基本的原理を踏まえ、個人と社会との関係を多面的、多角的に考察、構想できるようにする。	具体的な事例を通して、法や規範の意義及び役割について理解する。	○	◎	○
				○	◎	○
	8	第2部 よりよい社会の形成と参画 第1章 私たちの生活と法 1 個人と法 Activity 4 消費者の権利と義務 CHECKBox 01 日本国憲法の成立と基本原理 資料室 日本国憲法	日本国憲法と大日本帝国憲法との比較から相違点を考える。また日本国憲法の三大原則を理解する。	◎	○	○
	9	2 平等に生きる権利 3 自由に生きる権利 4 人間らしく生きる権利 資料室 日本国憲法の人権保障	「消費者の権利と義務」について、具体的事例を通して、多様な契約の存在や、契約の意義やリスクについて多面的・多角的に考察、表現できるようにする。	◎	◎	○
	10	5 ジェンダー平等を実現しよう  道徳	具体的な事例を通して、日本国憲法の基本的な権利のうち、平等権と自由権について理解する。	◎	○	○
			具体的な事例を通して、日本国憲法の基本的な権利のうち、自由権と社会権の違いについて理解する。	◎	○	○
			日本国憲法の基本的な権利のうち、「新しい人権」について理解する。また、個人情報保護に係わって、資料を読み取って、情報モラルと情報リテラシーを高めることの重要性を理解する。	◎	◎	○
				◎	◎	○

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
3	11	5 新しい人権 zoom あっぶ④ 個人情報の保護と情報リテラシー第2章 私たちの生活と政治	日本国憲法の基本的な権利のうち、「新しい人権」について理解する。また、個人情報保護に係わって、資料を読み取って、情報モラルと情報リテラシーを高めることの重要性を理解する。	◎	◎	○
	12	1 日本の統治機構 zoom あっぶ⑤ 世界の統治機構	日本の統治機構と世界の統治機構と比較し、私たちの権利や自由を守るためにどのように組織されているのか理解する。	○	○	○
	1	2 国会のしくみとはたらき	国会のしくみと働きについて理解する。	◎	○	○
		3 内閣のしくみとはたらき				
		4 行政機関としての国の役割と体制	日本の行政機関の特徴と行政権の拡大の問題点について理解する。	◎	○	○
		5 裁判所のしくみとはたらき				
		6 紛争解決のしくみ Activity 5 模擬裁判をやってみよう！	内閣のしくみと働きについて理解する。	◎	○	○
	2	7 地方自治の役割と現状 zoom あっぶ⑥ 世界の選挙事情	裁判所のしくみと働きについて理解する。また、司法権の独立の意義について考える。	◎	◎	○
		8 選挙のしくみ				
		9 政党と政治参加	刑事裁判と民事裁判の違いについて理解する。また、紛争解決の様々なしくみについて理解する。	◎	○	○
		10 民主政治の原理と世論 Activity 6 地域の課題を解決する取り組み				
	3	10 人や国の不平等をなくそう 11 住み続けられるまちづくりを 16 平和と公正をすべての人に	「模擬裁判」を事例に、裁判や法律家が果たす役割、適正な手続き、証拠や論拠に基づき公平・公正に判断することについて多面的・多角的に考察、表現できるようにする。	◎	◎	○
			地方自治のしくみと意義や選挙のしくみと課題について理解する。	◎	○	○
			民主政治において世論が果たす役割と課題について理解する。	◎	○	○
			「模擬請願」を事例に、現在住んでいる自治体が抱える課題について適切に情報を収集し、読み取って、課題の解決の在り方について考察、構想する。	◎	◎	○
		第3章 平和主義と日本 1 日本の平和主義と憲法 Activity 7 平和を守ろう！ 2 日本の外交と平和な社会の構築 Activity 8 世界平和について考えてみよう！ How to 公共2 「憲法改正」の是非について、幸福、平等、公正の視点から考えよう	具体的な事例を通して、我が国の安全保障に自衛隊の果たしてきた役割を理解するとともに、日本の安全保障の在り方について考察、構想する。	◎	◎	○
			日本の戦後における外交のあゆみを通して、平和な社会を作るために日本の外交が果たしてきた役割とその課題について理解する。	◎	○	○
			「領土問題」を事例に、現在日本が抱えている「領土問題」の経緯に関する情報を収集し、読み取って、「領土問題」の解決の在り方について考察、構想する。	◎	◎	○
			「憲法改正」を事例に、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方等を活用して、憲法改正の在り方について考察、構想する。	◎	◎	○

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
3	2	第5章 私たちの生活と国際社会 1 国際社会と国際法 2 国際連合と国際機関 CHECKBox 04	国際社会における国家主権の意味と、国際関係を規律する国際法の意義及びその発達について理解する。	◎	○	○
	3	国際社会の動向と日本 3 平和な国際社会をめざす 4 グローバル化する社会 Activity 14 経済のグローバル化と相互依存 5 発展途上国の経済成長と地域的な経済統合 6 持続可能な国際社会 Activity 15 国際社会で貢献しよう！ How to 公共3 水をめぐる問題 SDGs を参考として、日本の立場（個人・国家）でどのような解決策を考えられるだろう	国際連合と国際機関の意義と役割について理解する。 第二次世界大戦後、世界の体制はどのような展開をしたのかを理解する。また、その歴史の中で、核拡散防止の現状と核軍縮に向けた取り組みについて理解する。 自由貿易と保護貿易の違いを理解するとともに、自由貿易が拡大した背景やその影響（「相互依存」等）について、為替レートや国際収支と関連付けながら理解する。 「経済のグローバル化と相互依存」を事例に、グローバル化の進展が及ぼす影響と社会の変化について、考察し、表現する。 先進国と発展途上国との経済格差の問題とリージョナリズムが引き起こす意義と課題について理解する。 「国際社会で貢献しよう」を事例に、SDGsの概念を理解するとともに、ODA大綱等の資料を読み取り、日本が国際社会で果たすべき役割について考察し、構想する。 「水をめぐる問題」を事例に、諸資料を読み取り、論点を踏まえて、「水」を巡る国際的な問題に対して、どのような取り組みが求められるのか、考察し、構想する。	◎	○	○
		 		◎	○	○
		経済分野、国際政治分野については3学年で履修する政治・経済で扱う。		○	◎	◎